



牧之原市議会議員
植田博巳

次世代につながる持続可能な
まちづくりの実現に向けて

謹賀新年

2023年 年頭のごあいさつ



牧之原市長
杉本基久雄

牧之原市の輝く未来に向け
全力で取り組む

明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により停滞していたムードも少しずつ戻り、地域の祭りや社会経済が動き始めました。

一方では、円安の進行やロシアによるウクライナ侵攻の長期化の影響により、電気料金や生活物価の高騰などが生じ、厳しい生活が強いられています。

また、昨年9月には台風15号の豪雨による河川の溢水や越水、突風などの甚大な被害が発生し、地球温暖化による異常気象への対策が急務となっています。

市議会におきましては、ウィズコ

ロナ・アフターコロナを見据えた各種活動を再開し、10月には、会場や参加人数の制限を設けた形ではあります。対面式の議会報告会を3年ぶりに開催しました。さらに、会場に参加できない皆様に議会の活動を知っていただくため、ウェブ配信も行いました。

また、「持続可能なまちづくりについて」「高齢化社会対策について」の政策提言を行ったほか、牧之原市の将来のまちづくりに向け策定中である「第3次総合計画」に関する特別委員会を設置し、市長に対して意見書および提言書を提出しました。

9月に発生した通園バス置き去り事故につきましても、二度と悲劇を起さないため再発防止を求める要請書を提出するなど、市政の諸課題

に対し、積極的に取り組んでまいりました。

喫緊の課題である河川氾濫や土砂災害などの対策においては、市とともに国、県へ要請活動を行うなど、市民の皆様の安心・安全を確保するため活動してきました。

今後も市議会は、学校再編や、地震、津波、風水害などの災害対策など、山積する課題の解決に向け議会一丸となり、次世代につながる持続可能なまちづくりを実現するため、市民の皆様の声を市政に反映させてまいります。

結びに、2023年が明るく希望に満ちた年になりますように、牧之原市民の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年は、将棋のタイトル戦「おいお茶杯第63期王位戦第5局」が市内で初めて開催されました。また、牧之原地区出身で明治大学の村松開人さんが中日ドラゴンズから2位指名され、当市にとっては35年ぶりのプロ野球選手になるなど、大変喜ばしい出来事がありました。

一方、通園バスで起きた悲惨な事故につきましては、「命を預かる、命を育む」という本来の幼児教育・保育に立ち返り、子どもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりを、市を挙げて進めていきます。

本年、市では「第3次総合計画」

がスタートします。前期基本計画に5つの重点戦略・プロジェクトを位置付け、当市の大きな課題である若者の減少に対応し、住む魅力を高める取り組みを進めてまいります。

高台・榛原・相良の各エリアの魅力ある土地利用の推進と連携を強化し「富士山型ネットワークの充実」を進めます。また、農地再生や製造業の設備転換、発展支援とともに、公共施設や各家庭への再生可能エネルギーの導入などを促進し、「ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」に向けて取り組みます。

出産や育児に係る経済的支援の充実や、子育てと仕事を両立できる働き方の支援、保育サービスの充実などによる「日本一女性にやさしいまちの推進」に取り組むとともに、魅

力ある教育環境の実現に向けた「次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」を進めます。

「DX（*）の推進」による生産性や利便性向上についても進め、これらの取り組みにより若者を中心とした定住促進を図り、持続性のあるまちづくりを実現してまいります。

長引くコロナによる経済停滞、円安進行や物価高騰の中で、交流人口や関係人口の増加、地域経済の活性化に向けた取り組みとの両立が重要です。直面する課題に迅速かつ柔軟に対応するとともに、牧之原市の輝く未来に向け全力で取り組んでまいります。

結びに、市民の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

*DX=デジタルトランスフォーメーション

静波海岸の初日の出